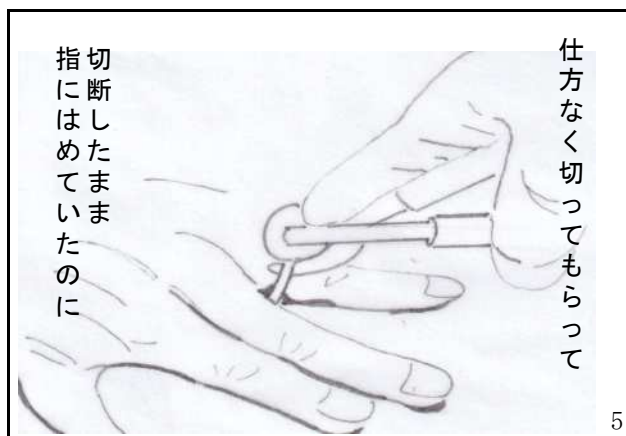
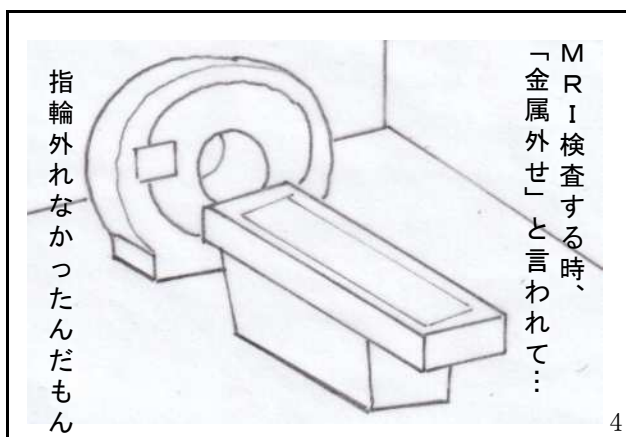
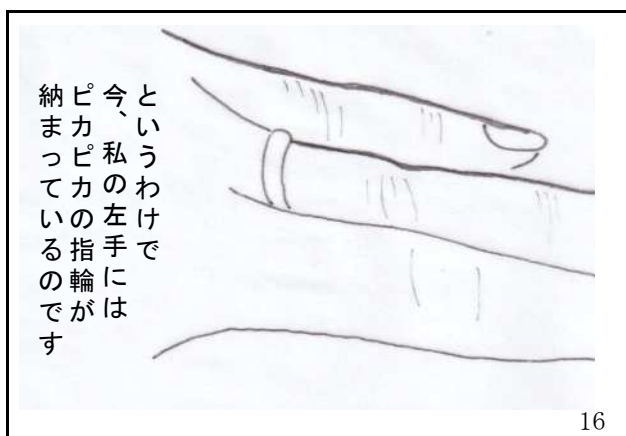
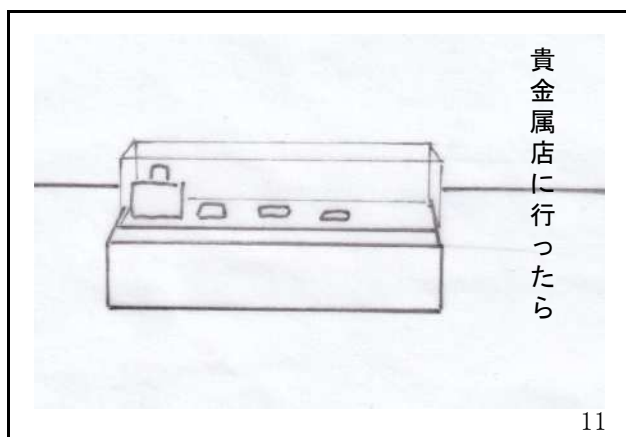


ピカピカの左手



ピカピカの左手



ピカピカの左手

編集後記

実は私も結婚指輪を失くしています。それから30年以上経っていますが、今も時々、貴金属店の結婚指輪の展示には目が行くんですよね。中途半端な性格で、何でもよく失くすことが多いので、再び指輪をはめられる自信は無いのですが、やっぱり新婚時代は今になっても思い出されます。

資料

沼田賢治;取れない指輪の取り方,CareNet,20240110

ひととき;ピカピカの左手,朝日新聞,20240201

「あれ、ない」。気付いたのは、ある退屈な会で司会者と目を合わさないように下を向いていた左手がやけにスースーすると思ったら、結婚指輪がなかった。

結婚して40年以上、指輪を外したことはなかった。数年前、MRI検査を受ける時にきつくて外れず、仕方なく切ってもらった。切断部にすき間ができたけれど指にはめることができ、それ以来、外れることはなかったのに。

指輪をなくしたことを夫に話すと、数日して「新しいの作ろうか」との提案があった。年季が入った指輪は傷だらけで、色もかなりくすんでいたのだが、それなりに愛着があった。なかなか踏ん切りがつかない。

しかし夫は、自分の指輪も新しくするから、と言う。早いほうがいいとせかす夫と、雪が舞う中、貴金属店に向かった。

いい年の夫婦が結婚指輪を見ているのをどう思われるか。気にしていると、「指輪をなくしたので新しくしようと思ひまして」と、夫が店員に説明してくれた。

というわけで、今、私の左手には、ピカピカの指輪が納まっている。古希を迎えた、しわも目立ち始めた手には、やや輝きすぎて気恥ずかしいのだが。

